

「最期」と「最後」

久万美コレクション展Ⅱ

絶筆と呼ばれる「最期」の作品。それは、画家の一生を締めくくるばかりでなく、画家の生死に迫る手掛かりになります。古茂田守介(1918-1960)の《芦ノ湖》(1960年制作)は、42歳という短い生涯を喘息で閉じる前、最後に行った写生旅行で描かれた作品で、守介の絶筆とされています。単純化された山々のフォルム、モノクロームの色調。そんな静謐さから、絶筆のもつ意味、死生観へと想いを巡らせても不思議ではありません。



古茂田守介《芦ノ湖》1960年

画家が「最期」に描いた作品ではなく、描かれた人物、モデルが「最期」を迎えているというケースも多くあります。萬鉄五郎(1885-1927)の《T子像》(1926年制作)は、病魔と闘う我が子がモデルです。木下晋(1947-)《流浪Ⅱ》(1986年制作)は、実母に迫りくる死をリアルに描き上げています。これらの作品には描かれた人物の生涯、運命、生死はもちろん、画家自身の死生観も内包されているに違いありません。



萬鉄五郎《T子像》1926年

村山槐多(1896-1919)や長谷川利行(1891-1940)のように、夭折した画家たちにとっては、短い生涯が画業の「最後」でした。晩年と区分されるような時期はありません。自らの人生と格闘しながら、独自の表現を追求しています。彼らの画業は、最初から、死と隣り合わせていたのです。



村山槐多《裸婦》1915~16年頃



長谷川利行《あのあ》1937年



石井南放《上行寺船繋ぎの松》1990年

日本画では、石井南放(1912-1991)の絶筆《上行寺船繋ぎの松》(1990年制作)を中心に、鶴亭(1722-1785)や吉田蔵澤(1722-1802)などの晩年作を展覧します。

このほかに・・・

伝統に立つ新しい砥部焼、世界に通用する砥部焼を模索した向井窯・愛山窯。本展では、向井窯・愛山窯の西洋風絵付法を伝習した錦絵磁器や、象牙色の磁肌が美しい淡黄磁を中心に、明治期の砥部焼を一挙公開します。

交通

[JRバス]

松山から70分 / 予讃線松山駅から久万高原町行き
「久万中学校前(伊予鉄南予バス久万営業所と同所)」下車徒歩10分
[車]

駐車場45台(無料)

松山市内から国道33号線で約1時間、高知市内から約2時間
松山自動車道 - 松山I.Cから国道33号線を高知方面へ35分



久万美開館記念

2018/3/25(日)入館無料!

30th Anniversary

町立久万美術館

〒791-1205 愛媛県上浮穴郡久万高原町菅生2-1442-7
TEL. 0892-21-2881 FAX. 0892-21-1954
URL. <http://www.kumakogen.jp/culture/muse/>